



平成 15 年 9 月 4 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 雑固体減容処理設備設置工事の状況について

当社、敦賀発電所では、平成 10 年 10 月より雑固体廃棄物の減容処理を目的とした雑固体減容処理設備（プラズマ溶融システム採用）の設置工事を進めております。

（平成 10 年 10 月 26 日発表済）

本設備については、総合試運転を開始し、実規模試験装置を用いた運転性能確認の中で抽出した改善個所の状況・運転手順の確認を行うとともに、環境対策としてダイオキシンを処理する装置等を設置することとし、運用開始を平成 15 年 9 月頃を目標にすることとしました。

（平成 13 年 9 月 27 日発表済）

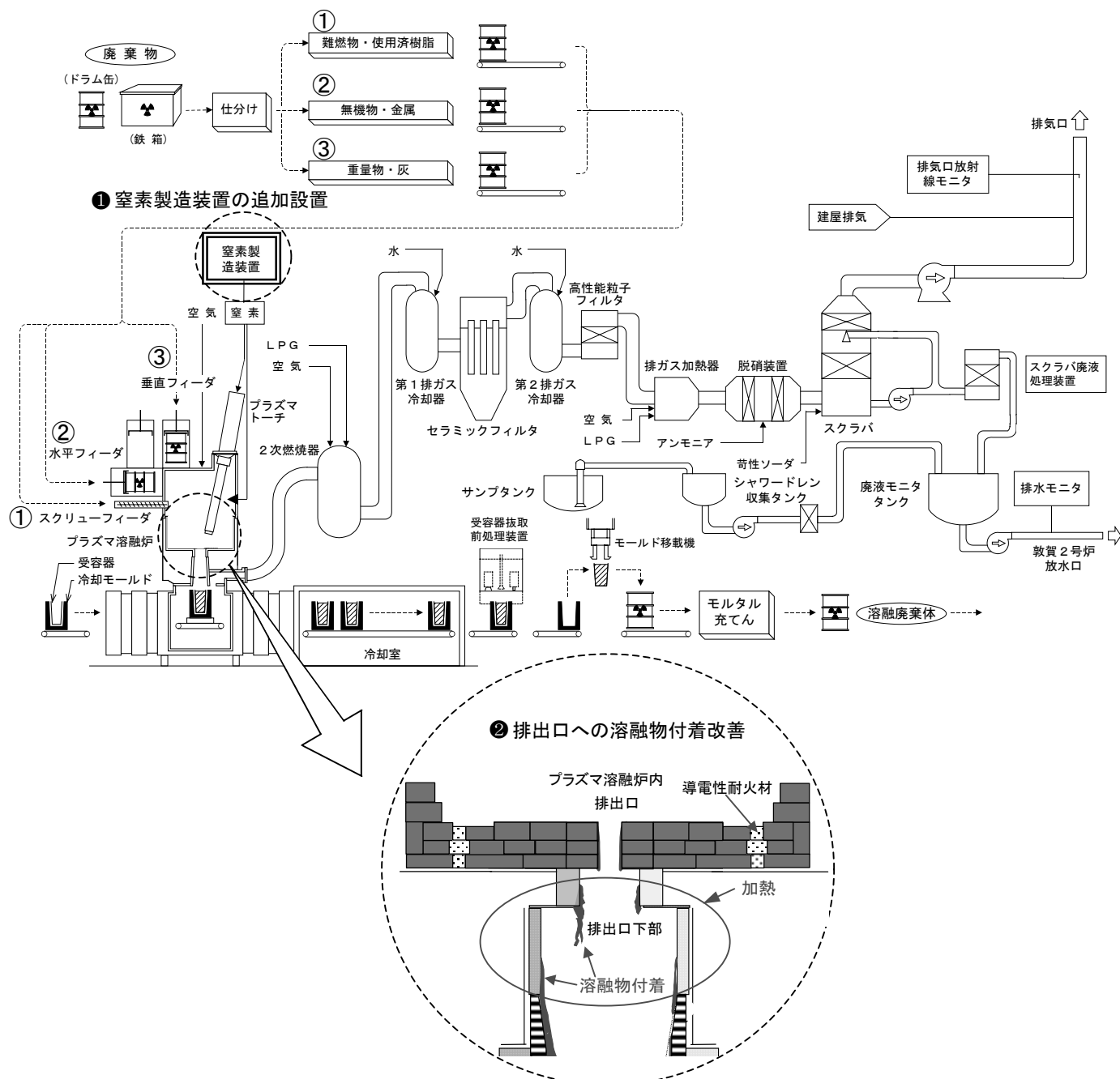
その後、総合試運転の中で模擬廃棄物を用いた溶融試験を行い、運転条件や設備性能の確認を実施してきました。その結果、溶融炉内の導電性耐火材の酸化・損耗抑制として炉内の酸素濃度を低減するための窒素製造装置の追加設置や、溶融された廃棄物が排出口に付着・堆積することへの対策が必要であることが判明しました。このため、平成 15 年 9 月頃予定の運用開始を、平成 17 年 3 月頃を目標にすることとしましたのでお知らせします。

以 上

添付資料 敦賀発電所 雑固体減容処理設備の改善について

敦賀発電所雑固体減容処設備の改善について

雑固体減容処理設備概略フロー図



① 窒素製造装置の追加設置

窒素製造装置により熔融炉内に窒素ガスを注入し酸素濃度を低くすることによって熔融金属の酸化を抑制しているが、熔融金属の酸化が進行すると、この酸化物によって導電性耐火材も酸化・損耗することがわかった。熔融炉内の酸素濃度を更に低減し、導電性耐火材の損耗を抑制するため、既設に加え窒素製造装置の追加設置を検討する。

② 排出口への溶融物付着の改善

溶融物をプラズマ熔融炉から排出する際、排出口下部への付着・堆積が見られた。溶融物の付着を防止し、安定した連続運転を行うため、排出口下部を加熱するなどの検討を行う。